



2008 年度(平成 21 年 3 月期) 第 1 四半期決算説明会 質疑応答 (要旨)

- ✚ 日時: 2008 年 8 月 7 日(木) 16:30 ~ 18:00
- ✚ 会場: 大手町サンスカイルーム

以下は、2008 年 8 月 7 日に実施いたしました決算説明会における質疑応答の様相(概要)を取りまとめたものです。

Q1. 国内線旅客の第 1 四半期は収入が伸び悩んでいますが、計画対比でどうでしたか？

A1. 個人旅客が伸び悩み、一方で団体旅客が増加したことで、平均単価が下落し、その結果計画に対して若干未達でした。

Q2. 通期で国内旅客の収入の計画は達成できるのですか？下期以降の戦略に変更はありますか？

A2. 団体旅客への需要喚起を図りつつ、法人セールスの強化等により、個人の業務需要も取り込んでいくことによってなんとか計画を達成したいと考えています。

Q3. 連結ベースで第 1 四半期の実績は対見通しでどうでしたか？

A3. 収入は若干未達でしたが、費用はほぼ全費目に関しそれ以上に万遍なく削減できましたので、利益ベースでは想定を若干上回りました。

Q4. 今後燃油市況がさらに上昇した場合、追加の減便・運休も検討するとのことですが、これ以上供給規模を縮小すると、2010 年の成田・羽田空港の拡張等への対応に影響ができませんか？

A4. 足元の燃油市況の上昇や競合他社の動向等へ柔軟に対応していかなければならないと考えています。一方で、2010 年の成田・羽田空港の拡張は大きなビジネスチャンスであるため、中長期的な方針に変更はなく、現在の対応が中長期的に影響を受けないように考慮しながら適切に対処していきます。

Q5. 今後さらに減便や運休を実施していく場合、機材の退役が増え、減損が発生するのではないですか？

A5. 今後の事業計画の見直しにもよりますが、現時点での下期修正に伴う部分では大きなインパクトはありません。

Q6. 国際線旅客において、プレミアムエコノミーサービスをご利用のお客さまが順調とのことですが、エコノミークラスからのシフトが多いのですか、それともビジネスクラスからのシフトが多いのですか？

A6. ビジネスクラス需要は前年対比で増加しており、プレミアムエコノミーサービスへのシフトはないと見ています。同じエコノミークラスの中でも高単価運賃をお求めいただくお客さまが増えています。

Q7. 中国線の業績が著しくありませんが、中国線を成長市場と見ていますか？今後の中国線における戦略方針を教えてください。

A7. 現在日本発の観光需要が落ち込んでいますが、中国発の観光需要、業務需要は旺盛であり、引き続き有望な成長市場であると考えています。今後は日本人のお客様を唯一のコアとするのではなく、中国地区で積極的な販売施策を展開するなど、中国人のお客さまにも選んでいただけるようビジネスモデルを転換していきたいと考えています。

Q8. 第1四半期では、ほぼ全ての費目についてコスト削減が図られていますが、こうした効果は今後も継続して現れてくるのですか？

A8. コスト削減は、一部について計画を上回るなど順調に進捗しています。今後もこの傾向が継続・深化するように努力していきます。

Q9. 「FY2008-2010 JALグループ再生中期プラン」でも述べていたコスト構造改革の進捗状況について教えてください。

A9. コスト構造改革は、これまでのコスト削減と違って単にムダを省くのではなく、各業務がそもそも必要であるのかどうかをゼロから洗い出し、ビジネスモデルの転換を図る抜本的な改革です。現在、来年度からの全面展開に向けてその準備は順調に進んでいるほか、一部については前倒しでの実施を検討しています。

以 上